

簿記の勉強の前に読む本

YouTube 動画で学ぶ

決算書の仕組み

さくら経営支援室

加藤健一郎

目次

目次

まえがき

動画の視聴方法

I, 簿記の目的

II, 貸借対照表(B/S)とは何か

III, 損益計算書(P/L)とは何か

IV, 借方と貸方の意味

V, 簿記の仕組み

VI, 簿記を学ぶメリット

電子書籍のご案内

研修・セミナーのご案内

著者プロフィール

まえがき

本書は、これから複式簿記の勉強に取り組もうと考えてみえる方を対象に著したものです。簿記の目的や基本的な仕組み、学習するメリット等にふれています。

スマホ等の小さな画面で閲覧されるケースも考慮し、意識的に文章量はおさえています。また、図表の代わりに YouTube の動画を挿入し、理解がすすむ内容となるよう努めました。

簡略な内容ではございますが、本書を通じて、読者のみなさんの学習意欲を多少なりともかき立てることができれば望外の喜びです。

2014. 9. 9 加藤健一郎

動画の視聴方法

【視聴方法 1】

文章中の動画 URL をタップする

【視聴方法 2】

文章中の QR コードをスキャンして
動画にアクセスする

【視聴方法 3】

YouTube サイト内の検索ボックスに
動画タイトルを入力してアクセスする

【視聴方法 4】

さくら経営支援室 YouTube チャンネルに
アクセスして動画を再生する (※)

<http://youtube.com/user/SakuraKeiei>

※ 動画の再生リストがアップロードされています。

上記 2～4 の方法であれば、本書をダウンロードした端末以外でも動画の視聴が可能です。

I, 簿記の目的

簿記の目的は、会社（または個人）の経済活動を帳簿に記し“決算書”をつくり上げることにあります。その決算書が表す内容は下記2点です。

【決算書が表す内容 1】

決算期末日の財産の内訳・状態

たとえば、決算期間の最終日において、「手持ちの現金はいくらあったか!？」とか「銀行からの借入金はどうくらいあったか!？」といった事柄です。

【決算書が表す内容 2】

決算期間の経営成績

たとえば、決算期間（通常1年）を通じて、「売上高はいくらだったか!？」とか「黒字だったのか赤字だったのか!？」といった事柄です。

決算書を通じて、経営者・管理職は自社の状態を客観的に把握し、その上で様々な経営判断を行います。また、取引先や銀行、投資家といった利害関係者（“ステークホルダー”）は、取引するべきか否かを判断します。

もしも決算書が不正確につくられていたら、どうなるでしょうか!?. 言わずもがな、経営者もステークホルダーも判断を誤ることになります。ですから、簿記の知識・技術はとても重要視されるのです。

【簿記の目的】

正確な決算書の作成

Ⅱ、貸借対照表（B/S）とは何か

前記Ⅰにて、決算書が表す内容には2点あることを紹介しました。そのうちの1つ、「決算期末日の財産の内訳・状態」を表しているのが貸借対照表です。

まずは以下の動画をごらん頂き、そのあとに続く説明文をお読みください。

【参考動画】貸借対照表とは何か!?

http://youtu.be/MEIPCc_Eplw



>>>

読者のみなさんは“会社の財産”といった場合、どのようなものを思い浮かべますか!?. . . 答えを急ぎますが、貸借対照表には、大まかなくくりとして下記3種類の財産が載っています。

【貸借対照表に載っている財産】

お金・権利・モノ

上記“お金”については、誰もが容易に想像できることでしょう。しかし、2番目の“権利”については、多少「!?’」となった方がいらっしゃるかもしれません。

たとえば、商品は売れたけれど代金はまだ頂いていない場合、販売した会社サイドには“売上代金の請求権”が発生しています。貸借対照表では、この権利を「売掛金」の名称（※）で記載します。

※ 簿記の世界では、「売掛金」等の集計単位を“勘定科目”と呼びます。

また、会社が従業員にお金を貸した場合、会社サイドには、その貸付金を返済してもらう権利があります。この権利は、その名のとおり「貸付金」の勘定科目名で、貸借対照表に記載されることとなります。

さて、上記“モノ”について、みなさんはどのような想像をされましたか!?!..おそらく、会社が保有する土地や建物等はイメージできたはずです。それ以外のところで補足すると、商売のために仕入れた在庫品もこれに含まれます。

在庫品は顧客に販売するためのものですが、実際に売れなかったとしても価値がゼロという訳ではありません。よって、会社が保有する財産（モノ）として貸借対照表に記載されます。

以上、貸借対照表に財産として“お金・権利・モノ”の3種類が載っていることを紹介しましたが、これらの財産はタダ（無料）では得られません。財産を得るためには“先立つもの”..つまり、お金が必要なはずです。

貸借対照表では、必ず左側のブロックに会社の財産が記載されており、このブロックを会計用語で『資産』と呼びます。そして、『資産』を得るために用立てたお金の内訳が、右側のブロックに記載されています。

【貸借対照表の構成】

左ブロック：会社の財産

右ブロック：用立てたお金

ひと口に「お金を用立てる」といっても、その方法は下記3つにわけられます。

【お金を用立てる方法】

他人から借りる

自分で用意

自分で稼ぐ

上記の“他人から借りる”は、銀行からの借入金がすぐ思い浮かぶでしょう。また、取引先から商品を仕入れて、支払いを待ってもらっている状態も、お金を借りているのと同じ

ことです (※)。

※ 勘定科目「買掛金」として貸借対照表に載ります。

2つ目の“自分で用意”は、いわゆる「資本金」のことを意味しています。そして、最後の“自分で稼ぐ”とは、事業活動を通じて稼ぎ出したお金のことを指しています。

以上、お金の用立て方を3つ紹介しましたが、“他人から借りたお金”は、いつか返済しなければなりませんから、貸借対照表上で『負債』と呼ばれます。

一方“自分で用意したお金”と“自分で稼いだお金”については、返済しなくても良いことから『純資産』（純然たる自分の財産）と呼ばれます。

【負債】

他人から借りたお金

【純資産】

自分で用意したお金

自分で稼いだお金

以上が貸借対照表の基本構造です。必ず、左に『資産』、右に『負債』『純資産』が配置されていることを頭に入れておいてください。

【貸借対照表 左ブロック】

『資産』：会社の財産

【貸借対照表 右ブロック】

『負債』『純資産』：用立てたお金

なお、『資産』は用立てたお金以上に保有することはできませんから、左ブロックと右ブロックは合計額が必ず一致（バランス）します。このことから、貸借対照表は別名“バランスシート”と呼ばれます (※)。

※ 英名「Balance Sheet」を略して“B/S”と呼ぶこともあります。

最後に、おさらいとして冒頭の動画をもう一度ごらんください。

【参考動画】貸借対照表とは何か!?

http://youtu.be/MEIPCc_Eplw



Ⅲ、損益計算書（P/L）とは何か

本書冒頭のⅠにて、決算書が表す内容には2点あることを紹介しました。そのうちの1つ、「決算期間の経営成績」を表しているのが損益計算書です。

損益計算書は、英名「Profit & Loss Statement」を略して“P/L”と呼ばれることがあります。直訳すると「利益（Profit）と損失（Loss）の計算書」です。

まずは以下の動画をごらん頂き、そのあとに続く説明文をお読みください。

【参考動画】損益計算書とは何か!?

http://youtu.be/2FiQ8L_OZWo



>>>

損益計算書は、売上高にはじまり、売上原価、売上総利益等、様々な項目が並んでいますが、単純なカタチにすると下記3つで構成されていることが分かります。

【損益計算書の構成】

『収益』：プラス項目

『費用』：マイナス項目

『利益』または『損失』：差額

この時、『収益』は右側、『費用』は左側にくることを押えてください。

【損益計算書 右ブロック】

『収益』:プラス項目

【損益計算書 左ブロック】

『費用』:マイナス項目

貸借対照表とは異なり，損益計算書はよほどの偶然でもない限り，左右の金額は一致しません。もしも会社が黒字であれば，その利益分，『収益』は『費用』より大きく（高く）なります。

この差額分こそが，貸借対照表『純資産』の“自分で稼いだお金”の正体です。実は，貸借対照表と損益計算書は縦につながっているのです。

最後に，以下の動画を改めてごらんください。

【参考動画】損益計算書とは何か!?http://youtu.be/2FiQ8L_OZWo

IV, 借方と貸方の意味

前記Ⅲの続きとなりますが、貸借対照表・損益計算書それぞれ、左右に記載されるものが決まっていました。

【左ブロック】

貸借対照表 『資産』

損益計算書 『費用』

【右ブロック】

貸借対照表 『負債』

貸借対照表 『純資産』

損益計算書 『収益』

簿記（正式には複式簿記）の世界では、左ブロックのことを“借方”，右ブロックのことを“貸方”と呼びます。

【左】借方（かりかた）

【右】貸方（かしかた）

ここで、以下の動画をごらんください。

【参考動画】複式簿記-借方と貸方

<http://youtu.be/qgySdIOUbjQ>



>>>

なぜ、左を「借方」、右を「貸方」と呼ぶのか!?!.. 諸説あって定かではありませんが、覚えにくいと感じる方は、貸借対照表の基本構造を思い出してください。

貸借対照表では、左ブロックの財産を形成するために、右ブロックで同額のお金を用立てる必要がありました。よって、左は“お金を借りる側”であり、右は“お金を貸す側”.. このように考えれば良いでしょう。

また、貸借対照表『純資産』は“会社が稼いだお金”で損益計算書とつながっていました。ですから、『収益』は貸方（右）、『費用』はその反対側の借方（左）にきます。

以上をふまえた上で、次章におすすみください。

V, 簿記の仕組み

『資産』『負債』『純資産』『費用』『収益』の 5 つを、借方（左）と貸方（右）にわけるのは何のためか!?!.. 不思議に感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、これこそが、複式簿記の仕組みの中核なのです。

まずは以下の動画をごらんください。

【参考動画】複式簿記の仕組みと決算書

<http://youtu.be/FQHbwmn-AKk>



>>>

複式簿記の世界では、ひとつの取引を借方（左）と貸方（右）にわけて帳簿付けします。たとえば、会社設立にあたり「株主が資本金 300 を出資」した場合、以下のように帳簿に記載します。

（現金） 300 （資本金） 300

上記は、借方（左）の現金（『資産』の勘定科目）が 300 増えると同時に、貸方（右）の資本金（『純資産』の勘定科目）が 300 増えたことを意味しています。

このように、複式簿記では『資産』『費用』の勘定科目を借方（左）、『負債』『純資産』『収益』の勘定科目を貸方（右）に記載した場合、その金額が増えることを意味します（動画内では、これを“基本形”と称しています）。

【基本形（金額が増える場合）】**『資産・費用』：借方（左）に記載****『負債・純資産・収益』：貸方（右）に記載**

一方、基本形の逆..つまり、『資産』『費用』の勘定科目を貸方（右）、『負債』『純資産』『収益』の勘定科目を借方（左）に記載した場合、その金額が減ることを意味します。

【基本形の逆（金額が減る場合）】**『資産・費用』：貸方（右）に記載****『負債・純資産・収益』：借方（左）に記載**

複式簿記の基本ルールはこれだけのことです。それでは、このルールに従って、動画後半にとり上げた具体例を説明して行きます。

【銀行からお金を 200 借りた】**（現金） 200 （借入金） 200**

基本形どおり『資産』の現金が借方（左）、『負債』の借入金が貸方（右）にきているので、それぞれ金額が増えます。

【銀行にお金を 100 返済した】**（借入金） 100 （現金） 100**

今度は基本形の逆ですから、それぞれ金額が減ります。

【100 売上げた（ただし未入金）】**（売掛金） 100 （売上高） 100**

売掛金（※）は『資産』、売上高は『収益』の勘定科目です。基本形どおりの並びですから、それぞれ金額が増えます。

※ 売上代金の請求権を意味する勘定科目です。

【売上代金 100 を回収した】**(現金) 100 (売掛金) 100**

売上代金を回収することにより、現金は増えます（基本形どおり）。一方、売上代金の請求権は無くなりますから、売掛金は基本形とは逆の貸方（右）にきています。

【従業員に給料 100 を支払った】**(給料手当) 100 (現金) 100**

給料手当は『費用』の勘定科目のひとつです。基本形どおり、借方（左）にきていますから金額が増えます。一方、現金は基本形の逆ですから金額が減ります。

以上、このような形で日々の取引を 2 つにわけて集計していくと、最終的に決算書ができあがります。最後に、おさらいとして以下の動画をもう一度ごらんください。

【参考動画】複式簿記の仕組みと決算書<http://youtu.be/FQHbwmn-AKk>

VI, 簿記を学ぶメリット

本書の最後に、簿記を学ぶメリットについて簡単にふれておきます。

【社会人の方】

冒頭でふれたとおり、取引先の選別や客観的な自社分析、及び、数字に基づいた経営判断が下せるようになります。

【就職活動に臨む学生の方】

これから就職する企業を選ぼうとする際、財務的な問題を抱えた会社への就職を回避することができます (※)。

※ すべての会社が決算書情報を開示している訳ではない点にご注意ください。

【株式投資をしたい方】

会社の経営成績を決算書の数字を通じて評価できるようになります。

以上、簿記は、現代社会を生きていく上で“最低限必要な知識”と言えるものです。もしも勉強するか否かで迷われているなら、ぜひおすすめしたいと存じます。

電子書籍のご案内

さくら経営支援室では、本書以外にも、決算書の読み方や予算の作り方等、会社マネジメントに関わる電子書籍（いずれもアマゾン Kindle 版）を出版しています。アマゾン販売サイト内の検索ボックスに、本のタイトルか「加藤健一郎」と入力して頂くと見つけることができます。

【電子書籍 1】

『経営者・管理職のための決算書の読み方【入門】』

<http://amazon.co.jp/gp/product/BOOLYPZU2S>

【電子書籍 2】

『キャッシュフローから考える予算の作り方』

<http://amazon.co.jp/gp/product/BOOMQRH8GO>

【電子書籍 3】

『中小企業のための人事評価制度』

<http://amazon.co.jp/gp/product/BOORIPXOZS>

【電子書籍 4】

『就業規則が中小企業を救う』

<http://amazon.co.jp/gp/product/B01065G3CW>

上記 1～3 につきましては、当事務所の YouTube チャンネル（下記 URL）に挿入動画集がアップロードされています。内容ご確認の上、本書とあわせてお読み頂ければ幸いです。

【さくら経営支援室 YouTube チャンネル】

<http://youtube.com/user/SakuraKeiei>

研修・セミナーのご案内

ご希望の日時・場所にて、本書の内容にそった研修・セミナーを開催いたします。プロジェクターとパワーポイントの動画を用いて、複式簿記や決算書の仕組みについてヴィジュアル的に解説します。

もちろん、本書と全く同じ内容とは限りません。具体例をとり入れつつ、より充実した内容とする所存です。また、ご依頼主様のリクエストに応じて、内容をカスタマイズすることも可能です。

ご興味のある方は、さくら経営支援室まで気軽にお問合せくださいませ。

【さくら経営支援室 連絡先等】

HP : <http://sakura-keiei.com>

【動画】 [さくら経営支援室の研修・セミナー](http://youtu.be/EHLn4ZMQf48)

<http://youtu.be/EHLn4ZMQf48>



著者プロフィール

さくら経営支援室

代表 加藤健一郎

昭和 50 年生まれ，名古屋大学文学部卒。平成 11 年，株式会社ジェイアール東海高島屋入社。翌年，新店（百貨店）オープンを呉服売場にて迎えた後，販売促進部へ異動。ポスターや新聞折込チラシ等の広告企画業務に従事する。平成 17 年，キャリアの方向転換をはかるべく退社。中小企業診断士・社会保険労務士の資格を取得し，実務経験を積む。平成 24 年，特定社会保険労務士試験に合格すると同時に，個人事務所「さくら経営支援室」を開設。現在に至る。広告担当時代の経験を活かした“専門用語に頼らない分かりやすい説明”が信条。

【保有資格等】

中小企業診断士（三重県中小企業診断協会）

特定社会保険労務士（三重県社会保険労務士会）

四日市商工会議所登録専門家

三重県産業支援センター登録専門家

名古屋新事業支援センター登録専門家

ミラサボ登録専門家

簿記の勉強の前に読む本

YouTube 動画で学ぶ

決算書の仕組み

発行 2014 年 9 月 9 日 初版発行

著者 加藤健一郎

Copyright Ken-ichiro Kato 2014

HP : <http://sakura-keiei.com>